

美しいひびき、感動にみちた 音楽との出会いをお届けします。



The 698th Subscription Concert of the City of Kyoto Symphony Orchestra

アムステルダム・コンセルトへボウ、コレギウム・ムジクム・ヴィンタートゥール、アンサンブル・レゾナンツと京響の4団体共同委嘱による藤倉大の新作「ダブル協奏曲」の日本初演です(世界初演は2025年1月)。ソリストには金川真弓(ヴァイオリン)、クレア・チェイス(フルート)を迎え、沖澤のどかの指揮でお贈りします。広いジャンルの作品を発表する藤倉大は、欧米のオーケストラ等の委嘱作品を手掛け、2020年には日本でオペラが世界初演されて、国際的に高い評価を受ける数少ない日本人作曲家です。京響の歴史に残る作品に立ち会うこの機会をお聴き逃しなく!〈フライデー・ナイト・スペシャル〉で演奏される「スピト・コン・フォルツァ」は、韓国出身の女性作曲家・陳銀淑が2020年にベートーヴェン生誕250周年を記念して作曲。「急に力強く」というタイトル通りパワーに満ちた曲です。そして、交響詩「英雄の生涯」。R.シュトラウスは沖澤のレパートリーの中でも中心に位置する作曲家です。R.シュトラウスはベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」を意識していたようで、タイトルは「Eroica 英雄」から「Heldenleben 英雄の生涯」と変えましたが、調は同じ変ホ長調で作曲されています。壮大なる英雄の詩を沖澤のとか&京響の熱演でお届けします。

指揮 ◆ 沖澤 のどか(常任指揮者)

2019年ブザンソン国際指揮者コンクール優勝、併せてオーケストラ賞と聴衆賞を受賞。2018年東京国際音楽コンクール〈指揮〉優勝。第28回(2020年度)渡邉曉雄音楽基金音楽賞、第21回(2022年度)齋藤秀雄メモリアル基金賞 指揮部門、第1回(2023年度)毎日芸術賞ユニクロ賞受賞。2024年2月、総監督・小澤征爾氏の生前の指名でセイジ・オザワ松本フェスティバル史上初の首席客演指揮者に就任。サイトウ・キネン・オーケストラへは2022年の同フェスティバルでデビュー後、すぐに再招聘を受けた。故郷の青森で2025年夏にスタートする「青い海と森の音楽祭」芸術総監督。2020-22年ベルリン・フィル・カラヤン・アカデミー奨学生、及びキリル・ペトレンコ氏のアシスタント。2022年3月、連邦大統領主催のベルリン・フィルのウクライナのための連帯コンサートを指揮。2022年5月ペトレンコ氏とともにカラヤン・アカデミー 50周年記念公演に出演。2023/24シーズンは、バーゼル室内管、ウィニペグ響、ケベック響、BBCウェールズ・ナショナル管にデビュー。また、東響及び2022/23シーズンにアーティスト・イン・レジデンスを務めたミュンヘン響へ再登場した。2024年6月にはNHK響で定期公演デビューを果たし、2025年は、2月に東京二期会へ『カルメン』で再び出演するほか、5月にはロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管へデビュー予定。読売日響、新日本フィル、日本フィル、都響など日本を代表するオーケストラへ定期的に客演。青森県生まれ。幼少期からピアノ、チェロ、オーボエを学ぶ。東京藝術大学で高関健、尾高忠明両氏に師事して修士号を取得。2019年ハンス・アイスラー音楽大学ベルリンでC.エーヴァルトとH.D.バウム両氏のもと第二の修士号を取得。ベルリン在住。2023年4月から京都市交響楽団第14代常任指揮者に就任し、任期は2029年3月末まで延長となった。



3/15暨公演 Sat, March 15

ヴァイオリン ◆ 金川 真弓

音楽への専心と、豊潤かつ深い音色で奏でられる音楽は数多くの聴衆を魅了している。2019年チャイコフスキー国際コンクール第4位、2018年ロン=ティボー国際音楽コンクール第2位入賞および最優秀協奏曲賞を受賞し、一躍注目を集める。2024年、ジョルジュ・エネスク国際コンクール優勝、併せてジョルジュ・エネスク・ソナタ賞受賞。同年、第34回日本製鉄音楽賞《フレッシュアーティスト賞》受賞。これまでに、プラハ放響、マリインスキー劇場管、ドイツ・カンマーフィルハーモニー管、フィンランド放響、ベルギー国立管、フランス国立ロワール管、モスクワ・フィル、ロイヤル・フィル、ベルリン・コンツェルトハウス管等と、日本では、N響、読響、都響をはじめ、全国各地のオーケストラと共演、京都市交響楽団には三度目の客演となる。これまでにハンヌ・リントゥ、セバスティアン・ヴァイグレ、ユーリ・シモノフ、パスカル・ロフェ、ヒュー・ウルフ、カーチュン・ウォン、アンドリュー・リットン、ケン=デイヴィッド・マズア、ヴァシリー・シナイスキー、リオ・クオクマン、エリアス・グランディ、トーマス・ダウスゴー、シルヴァン・カンブルラン、小林研一郎、秋山和慶、尾高忠明、小泉和裕、井上道義、広上淳一、沼尻竜典、川瀬賢太郎、山下一史等の指揮者と共演している。ドイツ生まれ。4歳から日本でヴァイオリンを始め、その後ニューヨークを経て、12歳でロサンゼルスに移る。現在はベルリンを拠点に演奏活動を展開させている。ハンス・アイスラー音楽大学でコリヤ・ブラッハーに、また名倉淑子、川崎雅夫、ロバート・リプセットの各氏に師事。2023年10月よりブレーメン芸術大学で教鞭をとる。現在はエル・システマジャパン弦楽りぼん・児童養護施設プロジェクトにスペシャル・サポーターとして参加し、芸術環境向上に寄与。使用楽器は、日本音楽財団貸与のストラディヴァリウス「ウィルへルミ」(1725年製)。



3/15壨公演 Sat, March 15

フルート ◆ クレア・チェイス

ニューヨーク・タイムズ紙に「現代で最も重要なフルート奏者」と評された音楽家、学際的アーティスト、教育者。現代の音楽のための新しいエコシステムの創造に情熱を傾けるチェイスは、新世代のアーティストによる何百もの新作の世界初演を行ってきた。2012年のマッカーサー・フェロー及び2017年リンカーン・センターからクラシック音楽のエイブリー・フィッシャー賞を受賞した最初のフルーティスト。2022-23シーズンのカーネギー・ホールのリチャード&バーパラ・デブス・クリエイティブ・チェア。ソリストとして、最近ではニューヨーク・フィル、ロサンゼルス・フィル、ヘルシンキ・フィル、BBCスコティッシュ響、ミュンヘン室内管、フィルハーモニア管、そしてエサ・ペッカ・サロネンの協力パートナーを務めるサンフランシスコ響と共演。ディスコグラフィーには、世界初演録音のソロ・アルバム8枚や、幅広い音楽ジャンルのアンサンブル、作曲家、サウンド・アーティストとのコラボレーションによる多数の録音がある。2013年にはDensity 2036という24年にわたる委嘱プロジェクトを立ち上げ、Densityのレパートリーを新たな解釈の方向へ導く、国際的で多世代にわたるフルート奏者コミュニティのサポートに取り組んでいる。また、オバーリン音楽院在学中にはインターナショナル・コンテンポラリー・アンサンブルを共同設立。2017年まで同アンサンブルの芸術監督を務め、アンサンブル・メンバーとして5大陸で演奏と教育プロジェクトに参加、1,000を超える新作の初演を実現し、アメリカン・ミュージック・センターのトレイルブレイザー賞、ミュージカル・アメリカ・ワールドワイドの年間最優秀アンサンブル賞等を受賞した。ハーバード大学音楽学部教授。ジュリアード音楽院クリエイティブ・アソシエイト。カリフォルニア州ルーケディア育ち。フルートに出会う前はプロ野球選手になることを子供の頃から夢見ていた。ニューヨーク・ブルックリン在住。



©David Michale

京都市交響楽団

City of Kyoto Symphony Orchestra

1956年に創立し、日本で唯一、自治体が設置し、運営に責任を持つオーケストラ。2015年、第12代常任指揮者の広上淳一とともに「第46回サントリー音楽賞」受賞、同年6月、広上淳一指揮のもとヨーロッパ公演で成功を収めた。2017年「第37回音楽クリティック・クラブ賞」本賞等を受賞。2020年4月、第13代常任指揮者兼芸術顧問に広上淳一(2022年3月まで)、首席客演指揮者にジョン・アクセルロッド(2023年3月まで)が就任。2008年4月から2022年3月まで14年間にわたり常任指揮者を務めた広上淳一のもとでは、数々の名演を生み出して黄金時代を築き上げた。2023年4月から第14代常任指揮者に沖澤のどかが就任、さらに2024年4月からは首席客演指揮者にヤン・ヴィレム・デ・フリーントが就任。京響は今、文化芸術都市・京都にふさわしい「世界に誇れるオーケストラ」として更なる前進を図っている。